

白ねぎの大苗育苗技術を用いた夏越し作型に適する品種選定について

【研究のポイント】

県内の白ねぎ栽培において、4～5月頃に定植する夏越し作型では、梅雨の大雨や夏期の高温・過乾燥などによる生育停滞が問題となっています。
 研究Now114で報告したように、葉鞘径（白い部分の太さ）を慣行の1.5倍となるよう二次育苗する技術（大苗育苗技術）を開発し、夏越し作型でも生育を安定させることができました。
 そこで、さらなる生産性向上に向けて、大苗を用いた夏越し作型に適した品種を選定するための栽培試験を行いました。



- 1 育苗中の生育状況
5品種の比較を行った結果、育苗期後半から、「大地の響き」は、他の品種に比べて葉鞘径が大きく推移しました（図1）。
- 2 定植後の生育状況
定植後も「大地の響き」は、他の品種よりも葉鞘径が大きく推移しました（図2）。

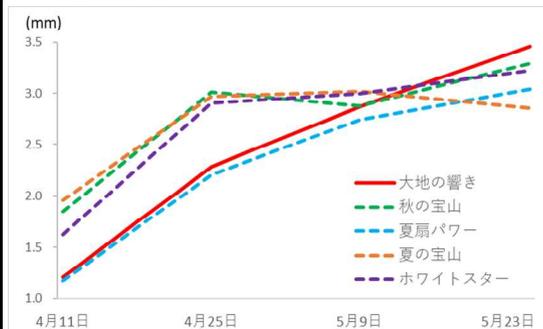


図1 二次育苗中の葉鞘径の推移
※各品種40株の平均

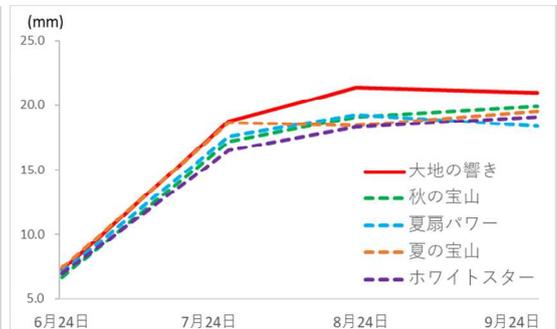


図2 定植後の葉鞘径の推移
※各品種60株の平均

【研究の成果】

- 3 収量について
「大地の響き」は他の品種よりも残存株率が高く、2L、Lサイズのネギも多かったため、収量が多くなりました（図3）。
 病害虫の発生等には品種による差は、ほぼありませんでした。

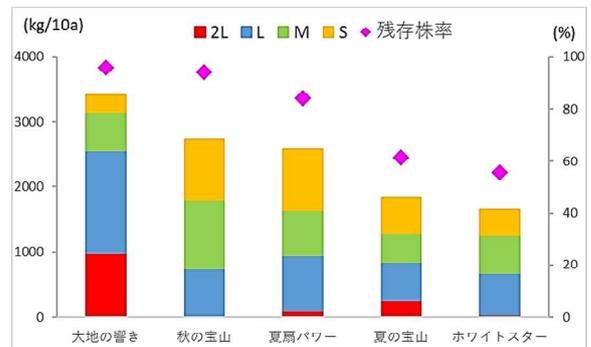


図3 収量と残存株率

※残存株率：定植した株のうち、収穫を迎えた割合

【栽培概要】

- ・播種：2022年2月18日（1穴2粒播種）
- ・二次育苗開始：2022年4月6日
- ・定植：2022年5月11日（40本/m）
- ・収穫：2022年11月1日（1m×3反復）

- 4 品種選定結果
育苗中及び定植後の生育状況と収量の結果から、大苗を用いた夏越し作型に適する品種は「大地の響き」と考えられました。

【生産者の声】



今年は暑い日が多く、体感的にきつく感じましたが、「大地の響き」はそれに負けないような印象がありました。また、別の品種では軟腐病によって生育が止まってしまった株もありましたが、「大地の響き」では大丈夫でした。病気にも強いと感じています。

（豊後大野市 白ねぎ生産者 後藤氏）

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部・葉根菜類・茶業チーム
 TEL：0974-28-2082
 住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8